

た  
ん  
た  
新  
聞

たんた新聞編集部  
〒270-1147  
我孫子市若松26-4  
我孫子市民図書館  
TEL.04-7184-1110



“いつかは、読みたいなあ”  
とおもっていた本は

ありませんか？

ながいながい夏休み、

せつかくだから、挑戦してみよう！

“なにか、おもしろい本

ないかな”と探していた人も、  
図書館に来てみてください。

ドキドキ、わくわくする物語が

きっとみつかるよ！



図書館では、

学年別ブックリストで、

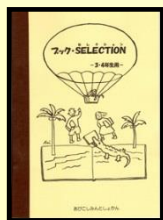
この新聞のほかにも、おすすめの本を  
たくさん紹介しています。

ブックリストは

- 図書館でもらえます。
- 図書館のホームページで見られます。



1・2ねんせいよう



3・4ねんせいよう



5・6ねんせいよう

あたらしくなりました！

夏休みの宿題に役立つ自由研究・  
工作などの本をまとめて置いてあります。

アピスタ本館

湖北台分館

布佐分館

の

児童書コーナーをみてみてね。



わからないときは

図書館の人に

聞いてみよう！

## 2 ねんせいにおすすめ



「リスのバナシ」  
リダ・フォシェ／文  
フェードル・ロジャンコフスキー／絵  
いしい ももこ／訳編  
童話館出版 (2-フ)

森の中、リスの家族に、四ひきの赤んぼうがうまれました。一番いたずらぼうずはバナシ。一日、森をほつつきあるいて、いろんなあなに、鼻をつっこんだりします。おとうさんたちはいつもバナシの心配ばかりしています。

### 「フルリーナと山の鳥」

ゼリーナ・ヘンツ／文  
アロイス・カリジェ／絵  
大塚 勇三／訳  
岩波書店 (EAカ)



フルリーナは、山の中でキツネにおそわれたひなをたすけます。小さな鳥のことをいつも気にして、大切にそだてました。山の鳥も、フルリーナのことを大好きで、そばにいたがりました。けれど大きくそだつにつれて、鳥は、森や山をこいしがるようになり…。

- 「おっこちゃんたんたんうさぎ」 (福音館書店) 1-7
- 「おてつだいはもういやだ」 (岩崎書店) 2-シ
- 「きかんしゃ1414」 (偕成社) 2-7
- 「くまの子ウーフ」 (ポプラ社) 1-カ
- 「こぐまのくまくん」 (福音館書店) 2-ミ
- 「おしゃべりなたまごやき」 (福音館書店) EAチ
- 「うできき四人きょうだい」 (福音館書店) MEAホ、EAホ
- 「はらぺこオオカミがんばる」 (岩波書店) 2-ス

## 1 ねんせいにおすすめ

- 「こねこのぴっち」 (岩波書店) EAフ
- 「ジオジオのパンやさん」 (あかね書房) 1-キ
- 「エルマーのぼうけん」 (福音館書店) 2-ガ
- 「たんたのたんけん」 (学研プラス) 1-ナ
- 「はちうえはぼくにまかせて」 (ペンギン社) EAグ
- 「チムともだちをたすける」 (福音館書店) EAア
- 「ふたりはともだち」 (文化出版局) EAロ
- 「ぼくのつくえはぼくのくに」 (学研) 1-サ



「がちょうのペチューニア」  
ロジャー・デュボワザン／作  
まつおか きょうこ／訳  
富山房 (EAデ)

うまれてはじめて、ほんをてにしたペチューニア。「ほんをもち、これにしたしむものは、かしこくなる」ときいて、どこにももってあるきました。“ほんはよむもの”とはしらずに。かしこくなったとおもいこみ、なかまのそうだんにのりますが、うまかいけつできるでしょうか。

「わにのはいた」  
マーガリット・ドリアン／ぶんとえ  
光吉夏弥／やく  
大日本図書 (2-ド)

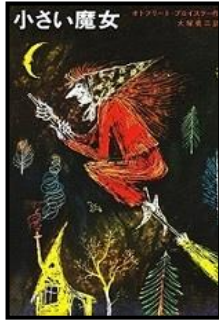


どうぶつえんのわにが、はがいたくて、なにもできなくなってしまいました。はいたのわには、バスにのってはいしゃへいくことになりました。けれども、バスをまちがえてしまいます。わには、しめしめ、とよろこびました。はいしゃがこわくて、いきたくなかったのですから。

# 4年生におすすめ

## 「小さい魔女」

まじよ  
オトフリート=プロイスラー／著  
大塚 勇三／訳  
ウィニー=ガイラー／画  
学研 (2-ブ)



ダンスパーティーの夜、大きい魔女たちにのけ者にされた小さい魔女は、がまんができません。「いつかなんていや！今夜まぎれこんでやる。」とつつかまるよ！あいぼうのカラスの言うことも聞かずに、ほうきに飛びのります。



## 「ふしぎの森のミンピン」

ロアルド・ダール／さく  
パトリック・ベンソン／絵  
おぐら あゆみ／訳  
評論社 (EAベ)

ぼくはついに森の中に足をふみ入れた。ママには「部屋でいい子にしているよ」と言いながら、窓からぬけ出した。でもやっぱりカイブツはいた。あらあらしい鼻いきで、ゴウゴウと火を吹きながら追いかけてくる！もうだめだ、と思ったとき、ぼくはミンピンに出会ったんだ。

- 「ペニーさん」 (徳間書店) EAエ
- 「ものいうなべ」 (岩波書店) M2-オ、2-オ
- 「ペットねずみ大さわぎ」 (岩波書店) 2-ピ
- 「魔女ジエニファとわたし」 (岩波書店) 2-カ
- 「エイプリルと子ねこ」 (ジーシー) EAニ
- 「ひとりっ子エレンと親友」 (学研) 2-ク
- 「長くつ下のピッピ」 (岩波書店) 2-リ
- 「ベロ出しチョンマ」 (理論社) 1-サ

# 3年生におすすめ

- 「グレイ・ラビットのおはなし」 (岩波書店) EAテ
- 「目をさませトラゴロウ」 (理論社) 1-オ
- 「ぼくの町にくじらがきた」 (偕成社) 2-ヤ
- 「ふしぎな500のぼうし」 (偕成社) EAド
- 「べんけいとおとみさん」 (福音館書店) 1-イ
- 「かつてなカラスおおてがら」 (岩波書店) 2-エ
- 「おばけのトツカビ」 (太平出版) M2-チ、2-チ
- 「きかんぼのちいちゃいもうと」 (福音館書店) 2-エ

## 「ちびっこカムのぼうけん」

神沢 利子／作  
山田 三郎／絵  
理論社 (1-カ)



ずっとずっと北の国に、カムという男の子がいました。そこには火をふく山があつて、オニがすみ、のろいの湖があり、だれもその山から帰ってきた者はありません。けれども、いさましいカムはへっちゃら。「おらはちびっこカムだ。かあさんのびょうきをなおす、イノチノクサをみつけにきた。」マモノにしょうぶをいどみます。

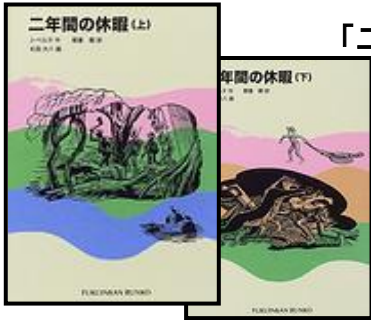


## 「みしのたくかにと」

松岡 享子／作  
大社 玲子／絵  
こぐま社 (1-マ)

「ぼく、“みしのたくかにと”よりほかのものは食べたくない！」ある日、王子さまが言い出しました。そんなわけのわからない食べ物があるでしょうか。ふとちよおばさんは、それをちゃんとそだてて、王子さまにごちそうしてあげるつもりです。

# 6年生におすすめ



「二年間の休暇」上・下  
 きゆうか  
 J.ベルヌ／作  
 朝倉 剛／訳  
 太田 大八／画  
 福音館書店 (2-ヴ)

荒れ狂う海の中、マストの折れた船を操縦するのは14歳の少年だった。港にとまっていたはずの船が、子どもだけを乗せて難波し、無人島に漂着。少年たちは知恵を寄せ集め、必死に生き延びる。

「肥後の石工」  
 ひご いしく  
 今西 祐行／作  
 岩波書店 (1-イ)



鹿児島島の城主が熊本から優れた石工職人を呼び寄せ、橋をかけさせた。

石造りの橋は、美しいアーチ型で、一カ所石を取りはずせば、とりこわせる仕組みになっていた。敵がせめてきたときのための秘密のしかけを知る石工たちは、橋が完成すれば殺される運命だった。石工頭の三五郎も、刺客に追われる身となって…。

- 「クローディアの秘密」 (岩波書店) 2-カ)
- 「ムギと王さま」 (岩波書店) 2-フ)
- 「ハヤ号セイ川をいく」 (講談社) 2-ピ)
- 「公害に苦しむ野生生物」 (佑学社) 519)
- 「人形の家」 (岩波書店) 2-ゴ)
- 「風と木の歌」 (偕成社) 1-7)
- 「グリーン・ノウのお客さま」 (評論社) 2-ホ)
- 「赤毛のアン」 (講談社) 2-モ)

# 5年生におすすめ

- 「ぼっぺん先生と帰らずの沼」 (筑摩書房) 1-7)
- 「大きな森の小さな家」 (福音館書店) 2-7)
- 「しずくの首飾り」 (岩波書店) 2-エ)
- 「八郎」 (福音館書店) EAタ)
- 「人間 野口英世」 (偕成社) 289ノ)
- 「ドリトル先生アフリカゆき」 (岩波書店) 2-ロ)
- 「子ブタシープピッグ」 (評論社) 2-キ)
- 「アナグマと暮らした少年」 (岩波書店) 2-エ)

## 「ブナの森は緑のダム」

太田 威／文・写真  
 あかね書房 (653)



ブナの森は、雨水をたつぷりとうけとめることができる“緑のダム”。その仕組みのひみつをとおして、思いもよらない森の世界の真相を見せてくれます。



## 「がんばれヘンリーくん」

ペバリエー・クリアー／作  
 松岡 享子／訳  
 ルイス・ダーリング／絵  
 学研 (2-ク)

「おまえは、どうしてそうつぎからつぎへとめんどろばかりおこすの？」とママは言うけれど、ぼくはなにもしていないんだ。ただ、すて犬を連れて帰ろうとしたら、パトカーが来ちゃって、おこづかいをもってペットショップに行ったら、ぼくのへやじゅうに、びんづめを並べるはめになっちゃったんだ！

へんしゅうこうき

やぶかにさされると、すごくかゆくなってたいへんだよね。でも、おすのかは、ひとをささない、ってしてた？ そんなことがわかる『やぶかのはなし』(栗原 毅/ぶん 長 新太/え 福音館書店) もおもしろいよ！

